

糸満市の史跡

出前講座編（総合）



具志川城跡発掘風景（平成13年度）

国指定 具志川城跡・市指定 南山城跡・県指定 米須貝塚・
国登録文化財 潮平ガー・真栄里貝塚・報得橋・嘉手志ガー・
真壁グスク・米須グスク・米須シカ化石・白銀堂・山巔毛・
幸地腹 赤比儀腹両門中墓・照屋の石影獅子・大度海岸・
荒崎海岸植物群落・

2007年2月

糸満市教育委員会総務部文化課

国指定史跡 ぐしかわじょうせき 具志川城跡

字喜屋武の海岸に築かれたグスクです。陸続きの東側城門は切石積みで、他は海岸に沿って野面積み石垣を築いています。県内には「具志川城」と呼ばれるグスクが、本市と具志川市、久米島町にもあって共に海岸に築城したところか似ていると言われていますが真意は定かではありません。

本城跡は、平成 12 年度から平成 24 年度までの計画で保存修理事業を行っています。一部石垣については修復工事が行われています。



修復された北のアザナ

市指定史跡 なんざんじょうせき 南山城跡



南山城跡は、字大里・高嶺小学校敷地内にあるグスクです。1984 年、市教育委員会によって発掘調査が行われ、中国製陶磁器やカンザシ、マガタマなど多くの遺物が検出されています。検出された遺物には 12 世紀後半から 17 世紀頃までの陶磁器があり、特に 14 世紀から 15 世紀の中国製陶磁器が比率的にかなりの量が検出されています。この時期が南山の栄えた頃だと思われる。

南山は、おおざとあんじ 大里按司 → しょうさつど 承察度 → おうおうそ 汪応祖 →

たるみ 他魯每と四代の王によって まつりごと 政 が行われたと伝えられています。

県指定史跡 米須貝塚

字米須の南方約 800m の海岸砂丘にある弥生時代相当の貝塚です。近くの海岸には「スーガー」と呼ばれる湧水があります。この地域は貝塚形成の立地条件をよくそなえた地域で、近くの砂丘に縄文晩期の土器が出土した大度貝塚があります。

遺物は、貝を利用した「貝札」「貝錘」「貝匙」などが出土しています。自然遺物としてチョウセンサザエやシャコガイ類など大型貝がかなりの量出土しています。



国登録有形文化財 潮平ガー

字潮平・公民館近くにある石造湧水で、沖縄県で始めて国の有形文化財として登録されました。このカーは大正初期に現在の形で造られたと云われ、上水道が利用されるまで字の貴重な水源として利用されていました。現在でも水量は豊富で、近隣の住民が生活用水として活用しています。

真栄里貝塚

字真栄里・真栄里入口近くの丘陵斜面部にある弥生時代相当遺跡です。この遺跡からは底がくびれた「平底土器」が出土し、土器と共にノミ状の片刃で胴に抉りの入った「抉入石斧」が出土することから九州弥生時代前期相当の遺跡として沖縄考古編年表の弥生前期遺跡として紹介されています。平成 9 年度、発掘調査が沖縄国際大学と市教育委員会で行われ、グスク時代のたんぼ跡が確認されています。



むくえげし 報得橋

1991年8月、県道7号線改良及び橋梁改修工事によって地表下約3m地点で見られた石造りアーチ橋です。

もともと木の橋でしたが、台風や洪水で傾いたり流されたりしたため、尚敬王の命により石橋に改修されました。橋の改修は、1732年8月21日から11月1日まで述べ石工4,687人と人夫11,668人を動員して工事が行われました。現在の橋は、1993年3月に移設復元されたものです。



かごし 嘉手志ガー

字大里・南山城の北側にある水量豊富な泉で「ウフガー」「カタリガー」とも呼ばれています。この泉にまつわる伝説として、泉発見にまつわる話や金のビョウブとの交換にまつわる話などが伝えられています。泉が発見されるまでは大里の集落は南山の西側にありましたが、泉発見後、現在地へ移動したと云われています。最近まで字の簡易水道として使われており、上水道が整備された現在でも生活用水として利用されています。

まかへ 真壁グスク

字真壁北側通称「寺山」に築かれたグスクです。平成7年度、公園整備のための発掘調査が市教育委員会によって行われ、中国製陶磁器など多くの遺物が出土しています。出土遺物により12世紀後半から15世紀中まで使われていたことが分かりました。このグスクとお寺建設にまつわる伝説に「白馬伝説」があります。その他、組踊「月の豊多」があります。





こめす 米須グスク

字米須・米須小学校北側隣接するグスクです。市内では数の少ない輪郭式石垣を持つグスクです。曲がりくねった「虎口（コグチ）」や建物跡など典型的なグスク遺構を良く残しています。このグスクにまつわる話に「あだ討ち伝説」があります。

※ グスク丘陵一帯には、施設から逃げた「サキシマハブ」が生息繁殖しており、散策には十分な注意が必要です。

米須シカ化石包蔵地

字米須・^{こんぼく}魂魄の塔 南の海岸に堆積するサンゴ石灰岩に包含される化石で、干潮時に観察できます。化石を包含する土砂がフィッシャー（岩の割れ目）に流れ込んで堆積し水没、波の浸食作用によって地表面に現れました。種類は「リュウキュウムカシシカ」「リュウキュウキョン」で、数体から十数体の固体が堆積していると思われます。頭骨・角・肋骨・四肢骨などが観察されます。この海岸では、過去に「ナウマンゾウ」の化石（歯）も発見されています。



はくぎんどう 白銀堂

国道 331 号那覇から糸満ロータリー手前約 500m のところにある拝所で、方言名称は「イーピンメー」と呼ばれています。堂内には神名を「スルカニガイビウシジウメー（白銀の威部御筋御前）」と称される神が祀られています。

『白銀岩由来』には、「イジヌンジラーティーヒキ、ティーヌンジラーイジヒキ」ということわざが伝わっています。



さんていんもー
山巔毛

糸満ロータリー北側、派出所後方の石灰岩丘陵上にある拝所です。糸満ハーレーの時にはこの場所でハーレー鐘が鳴り響き、旧5月4日には、スタートをつける合図の旗が振り下ろされます。

三山時代、南山の最後の王となった他魯毎がここで最後をとげたとも云われています。



こうちばら あかひ ざばらりょうもんちゅうぼか
幸地腹・赤比儀腹 両門中墓

字糸満・新島保育所南にある県内でも最大規模の門中墓です。幸地腹と赤比儀腹の両門中が共同で使用しています。

手前4基が「シルヒラシ」中央奥の大きな墓が「トーチー」です。シルヒラシはいずれも石灰岩掘り込み墓で、トーチーは石造アーチ墓となっています。墓碑から1684年に亀甲墓の形で造られ、1935年の改修工事で現在の破風墓の形に改修されています。

てるや いしぼりじし
市指定彫刻 照屋の石彫獅子

字照屋・照屋バス停近くに所在する石彫獅子で、素材は琉球石灰岩。高さ約1m、最大長約60cm、最大幅約40cm。この獅子に関する資料は残っておらず、製作者及び製作年代は不明。獅子は、戦前まで照屋公民館近く設置されていましたが、集落が大きくなるにつれて2回移動、さらに県道拡張工事によって現在地へ移設されました。

この獅子は、ヒーゲーシ（火返し）としてヒーザン（火山）である八重瀬岳をにらんでいます。



おおど 大度海岸



大度海岸には水量豊富な泉があつて、イノー（礁池）がよく発達しています。近くの砂丘には縄文晩期の九州産土器が出土した「大度貝塚」あつて、貝塚時代から恵まれた環境で生活が営まれていました。

この海岸は日本の鎖国を解き、遠洋航海の草分けとして貢献した「ジョン万次郎」が日本へ帰国するさい、最初に上陸した地でもあります。

ハーメーチヂン

字座波・ホットスパーク向かいの林内「古島原」にあります。石灰岩の一部に亀裂があつて垂れ下がった形をしており、一部をたたくと「ポーン」と鼓のような音をかなでます。座波の集落がこの近くにあつたころ、住民への合図にこれをたたいて連絡したと云われています。

※ あまり強くたたかないようにしましょう



きやんかいがん あらさきかいがん 国登録記念物・喜屋武海岸及び荒崎海岸

喜屋武海岸は 10～20 ㍎の海食崖が発達している地域で、年間約 1 ミリメートル岩が浸食されて現在の地形がつくられました。

荒崎海岸では無植物帯、コライシバ、アダン林と特異な海岸植物の生態を観察することができます。

平成 18 年 7 月一度破壊すると二度と元に戻せない地域として九州では初めて「国登録名勝地」として登録されました。

